

Raise a child to think 自分で考え行動できる 子どもを育てる

子どもの成長的思考を伸ばすために
努力した過程を褒める



市教育委員 治部陽介さん

子どもは褒め方で変わる

発達心理学や障がい福祉の視点から子どもたちをサポートしてきた経験を活かし、昨年から教育委員を務めています。

これまで教育の世界では、IQや教科学力、記憶力などの「認知スキル」と呼ばれる能力が重視されてきました。しかし、近年の研究では、「諦めずにチャレンジする力」「ストレスを跳ね返す力」など、学力テストで測ることができない力を伸ばすことが大切だとされています。これらは「非認知スキル」と呼ばれています。

非認知スキルは、幼少期以降でも関わり方次第で伸ばすこともできますが、できるだけ幼少期に伸ばしておくことが望ましいと考えます。幼稚園や保育所の4歳児の時には能力に個人差が出て来るともいわれています。非認知スキルを伸ばすためには、固定的思考よりも成長的思考を育てる必要があります。成長的思考は褒め方次第で育つんです。例えば、テスト

で満点を取った子どもを褒める時に、点数や能力について褒めるよりも問題を解く方法や努力したこと、根気などを褒めてあげると成長的思考が育ちます。

一方、点数や能力などを褒めると、固定的思考が育ってしまいます。そうすると点数が少しでも悪い場合に子どもは怒られてしまうと考え、怖がってしまうのです。学力は動機づけと関係性が深いといわれています。努力した過程を褒められることや、どんな結果であれ努力が評価されることで、学習に対してより主体的に取り組んでいくと考えられています。

教育現場への浸透に期待

子どもたちが成長していく時に、引きこもりや貧困などの困難に直面することがあります。それを乗り越えるには、「レジリエンス」を高めておくことが大切です。

レジリエンスとは、「心の回復力」「ストレスから立ち直る力」のことをいいます。困難に直面したときに、自分にかかるストレスを跳ね返したり、人を頼って協力するこ

非認知スキル(一例)

- ☑ 諦めずにチャレンジする力
- ☑ ストレスを跳ね返す力
- ☑ 報酬を先送りにする力
- ☑ 人と協働する力
- ☑ 柔軟に考えを修正する力

認知スキル(一例)

- ☑ 読み書き能力
- ☑ 数字に強い
- ☑ コンピュータのスキル
- ☑ 記憶力
- ☑ 知能指数(IQ)

とで解決したりするのに必要能力です。それが高いほど困難に立ち向かえると考えられています。

レジリエンスだけを高めるのでは不十分とされ、非認知スキルは包括的に伸ばすのが良いとされています。

非認知スキルを重要視することは、教育現場の一部では認識され始めています。しかし、全体的に理解されていくことがこれからの課題であると思います。



揚げかぼちゃのおろしあえ

素揚げで栄養価も甘味もUP

レシピ 川西・猪名川地域活動栄養士連絡協議会

- 材料 2人分
 - カボチャ 125g
 - ダイコン 50g
 - 小ネギ 1本
 - 濃口しょうゆ 大さじ1/2
 - 酢 大さじ1
 - 揚げ油 適宜
- 熱量 (おとな1人分) : 110kcal、塩分 : 0.7g

- 作り方
- ①カボチャはくし切りにして5mm程度の厚さに切る。
- ②ダイコンはすりおろして濃口しょうゆ、酢と混ぜておく。
- ③小ネギは小口切りにする。
- ④カボチャを約170度(中温)に熱した揚げ油で素揚げにし、揚げたてのカボチャに②をかけて味をしみこませる。
- ⑤小ネギをふりかける。

POINT デンプンを多く含み、栄養価も長持ちするカボチャの旬は夏。酢の酸味で食べやすい一品に。

読み書きを通じた新たなつながり

識字教室で必要なのは
互いの理解を深め、信頼関係を築くこと

昭和63年、私は中学校教員という立場を離れ、解放学級の指導を行っていた縁もあり、総合センターへ赴任することになりました。昭和39年に成立した同和対策事業特別措置法の事業計画に基づき、部落差別の解消に向け立ち上がった人々の熱い願いを受けて作られたのが総合センターです。

同センターでは社会教育として解放学級や識字教室、生活改善として料理教室などの事業が行われていました。

識字教室には、成人女性が多く参加していました。参加者の女性たちは私が解放学級で指導していた生徒たちの母親に当たる人たちで、親子ともに教育を受け持つことにもなったのです。

識字の指導には同センター職員が携わっていました。参加者同士でも、読み書きのできる人が読み書きのできない人に教えるといった光景も見られ、同センター職員と地域住民それぞれが理解を深めながら授業が進められていました。教室では読み書きだけを勉強するのではなく、生い立ちや結婚問題などについて何度も学習し、これらを演劇や詩にして解放文化祭で舞台発表していました。

識字教室などの事業は、参加者がいなければ成り立ちません。事業に参加してもらうためにも、信頼関係を築くことが必要だと考えました。参加者との対話を重ね、徐々に互いに理解し合えるようになっていったように思います。

現在でも識字教室は「よみかき教室」と名前を変え、昼と夜に学習をしています。地域住民だけでなく外国人の生徒が加わり学習をしています。

(緑台小学校区人権啓発推進委員会委員長 矢野端)

「無料」のはずが26万円

廃品回収サービスのトラブル
「無許可」の回収業者にご注意

事例 テレビを廃棄したかったので、軽トラックで何でも無料で回収するとアナウンスしている業者を呼び止めた。業者は家に上がってきて「これも壊れている。これも捨てたほうがいい」と言ってテレビ、全自動洗濯機、小型冷蔵庫など7点の電化製品を次々と軽トラックに積みこんだ。「賞味期限が切れている食品や古い衣類も捨てたほうがいい。ごみはサービスで捨ててあげる」と言っておみ袋に詰めて帰ってくれた。最後に「処分費は26万円」と言われて驚いた。そんな金額は払えないと何度も何度も話して、やっと6万円にしてもらって払ったが、高額ではないか。領収書もないし、業者の住所や電話番号も分からない。(70歳 男性)

「無料回収」をうたって巡回している廃品回収業者に依頼し、積み込んだ後に思いもかけない高額な料金を請求されたという相談事例です。家庭から出るごみの収集・運搬は、市の許可を受けた事業者しか行えません。安易に処分を依頼することは、トラブルや不法投棄・不適正処理のもとになりやすいので注意が必要です。大型ごみや不用品の処分は市のルールに従って行いましょう。最近はインターネットで調べた業者に頼んでトラブルになったという事例も増えてきています。廃棄物の処理を依頼するときは、事前に市の一般廃棄物処理業の許可を持つ複数の事業者から見積もりを取り、料金だけでなく作業内容も比較検討しましょう。契約時や作業開始前には追加料金がないか確認し、作業時には家族や周りの人に立ち会ってもらうことも大切です。不審に思ったら、消費生活センターに相談してください。